

「これからの住まいとライフスタイルに関する生活意識調査（平成21年）」を実施しました。

生活意識調査（平成21年）

1 調査の概要

調査地域…全国
 調査対象…満22歳～73歳の男女
 標本数…943人
 （内回収数…860人、性別…女性55・9%、男性44・1%）
 抽出方法…層化二段無作為抽出法
 調査方法…留め置き記入依頼法（パネル調査）
 調査時期…平成21年1月22日～2月11日

2 調査トピックス

生活満足度 改善傾向が反転・微減

昨年までの生活満足度の改善傾向（平成17年～20年）が反転、平成21年調査では、ほぼ平成19年水準に悪化しました。とはいえ、百年に一度の大不況といわれる割に、それほど大幅な悪化は見られませんでした。

全体的な生活満足度に与える影響の大きさを見ますと、「生活の安全・安心に対する満足度」がもっとも寄与が大きい項目になります。不況による生活不安の増大

が、生活満足度の再低下につながっているのではないかと推測されます。

生活に対する不安感の高まり

生活の不安感について聞いたところ、増大しているという意見が多数を占めました。項目別に見ますと、「大きく不安感が増した」のは、年金問題、雇用問題、食の安全、医療問題、物価の水準（高騰）の順でした。「やや不安感が増した」まで含めると、年金問題、物価の水準（高騰）、食の安全、雇用問題、医療問題と順位が入れ替わります。年金、食、医療は国民共通の深

刻かつ長期的な問題。一方、雇用は不安の所在にばらつきがあり、物価は強い不安ではないものの、ひろく広がっているという特徴を指摘できます。

市場機能を重視する考えの退潮

「市場に任せておけば経済はうまくいく」という意見に対して、「そう思う」が2・8%、「そう思わない」が58・6%と、市場信奉者はごくわずかでした。平成13年2月に実施した調査では、「そう思う」7・1%、「そう思わない」53・2%でした。「市

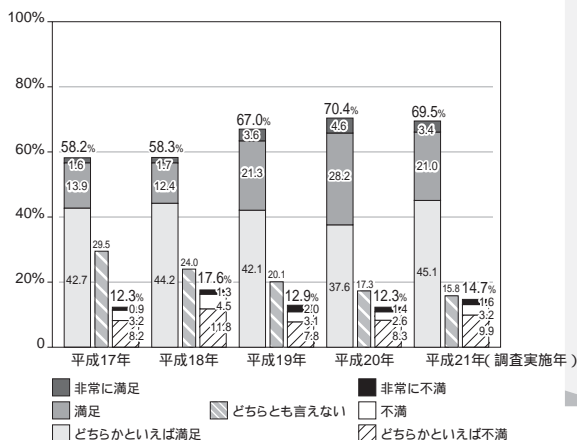


図1 生活満足度分布の推移

場に任せておけば経済はうまくいく」という人はさらに少なくなっています。

企業の社会的責任への期待 安定雇用やワーク・ライフバランスが増加

企業の社会的責任としてもっともふさわしいものは、「安心・安全で優れた商品・サービス」59.4%、「従業員の安定雇用」12.4%、「法令遵守」9.0%の順でした。

企業の社会的責任としてふさわ

しいものを5つまで選択する設問では、「安心・安全で優れた商品・サービス」84.6%、「従業員の安定雇用」57.1%、「法令遵守」45.3%、「家庭と仕事の両立支援」36.3%、「不祥事の際の迅速な対応」33.5%、「省資源・省エネ」33.1%、「二酸化炭素排出削減」30.6%の順でした。2年前の同様の調査と比較して顕著に増加した項目は「従業員の安定雇用」+13.4%、「家庭と仕事の両立支援」+6.4%でした。

雇用問題への関心の高まりを反

映し、安定雇用やワーク・ライフバランスの実現を企業責任として重視する傾向が、この2年間に顕著となったことを示す結果でした。

ワーク・ライフバランス 仕事の優先順位を下げたい人は多い

有職者に対して、「現在の生活」と「希望する生活」における仕事、家事、自由時間の「優先順位」を尋ねたところ、仕事が第1位の人は現実の生活では58.6%、希望する生活では32.8%でした。仕事が第

1位である最大の理由は、「仕事第一でなければ生活できない」54.8%、「仕事量が多いため優先せざるを得ない」15.6%、「仕事がおもしろい」9.2%などでした。

エネルギー消費 減らしたいが果たして減るか？

自分の家庭の今後のエネルギー消費の増減意向を尋ねますと、「増やしたい」1.4%、「減らしたい」70.5%、「どちらともいえない」27.9%であるのに対して、増減見通しでは、「増える」16.5%、「減る」24.4%、「どちらともいえない」59.0%でした。「増える」は「増やしたい」を15.1%上回り、「減る」は「減らしたい」を46.1%も下回っています。

将来世代の利益 「将来世代を現代世代と同等以上に考慮」が9割弱の大多数

地球環境問題に関する論点のひとつである「世代間の公平性」について、現代世代の利益優先は2.1%、「将来世代のことはわからないので考えることはない」は8.7%に過ぎないのに対して、現代世代と将来世代を同等と考えるとする人は69.0%、将来世代の利益優先は19.3%を占めています。男女ともに年齢が上がるほど将来世代の利益優先派が増える傾向が見られます。

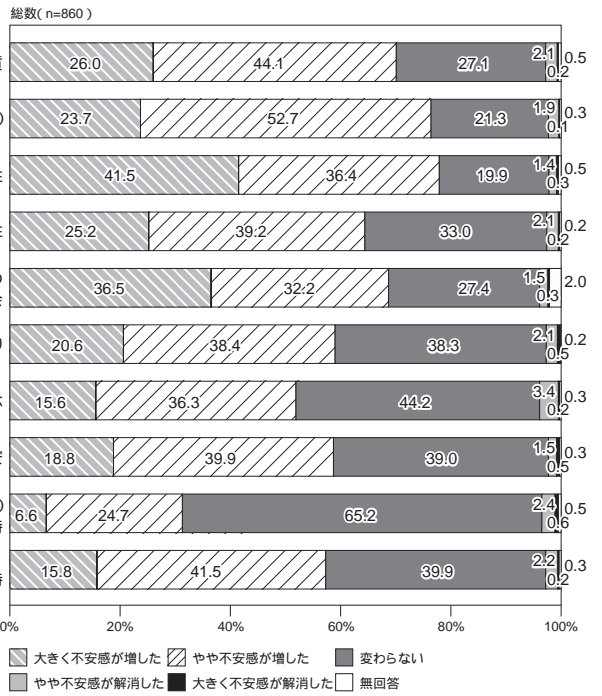


図2 生活の不安感に関する意識

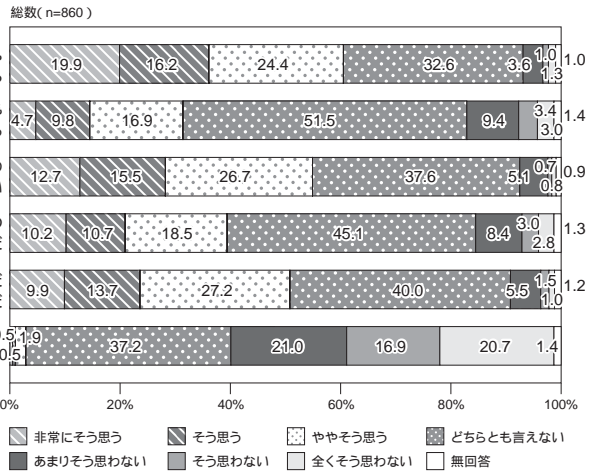


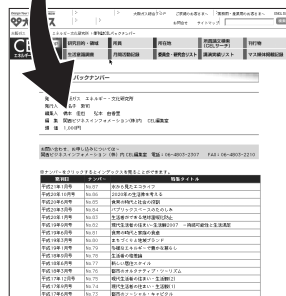
図3 経済や社会に関する意識

ナンバー	特集タイトル	発行日
88	持続可能なハウジング“団地再生”	2009年 4 月
87	水から見たエコライフ	2009年 1 月
86	2020年の生活像を考える	2008年10月
85	食育の時代と社会の役割	2008年 6 月
84	パブリックスペースのたのしみ	2008年 3 月
83	生活者ができる地球温暖化防止	2008年 1 月
82	現代生活者の住まい・生活観2007 ー持続可能性と生活満足	2007年 9 月
81	食育の時代と家庭の食卓	2007年 6 月
80	まちづくりと地域ブランド	2007年 3 月
79	多様なエネルギーで豊かな暮らし	2007年 1 月
78	生活者の格差論	2006年 9 月
77	新しい居住スタイル	2006年 6 月
76	都市のオルタナティブ・ツーリズム	2006年 3 月
75	現代生活者の住まい・生活観(2)	2005年12月
74	現代生活者の住まい・生活観(1)	2005年 9 月
73	都市のソーシャル・キャピタル	2005年 6 月
72	「火」のある暮らしの現在	2005年 3 月
71	「水」で蘇る都市	2004年12月
70	「エコライフ」という生活者価値	2004年 9 月
69	都市のストック再生	2004年 6 月
68	「火」の創造力	2004年 3 月
67	「木」がひらく未来	2003年12月
66	ロングライフ	2003年 9 月
65	大阪のコスモロジー	2003年 6 月
64	エネルギー選択の時代とは	2003年 3 月
63	エコトラフィック・デザイン	2002年12月
62	スローライフ	2002年 9 月
61	“創造都市”の時代へ	2002年 6 月

← 本誌・バックナンバーをご希望の方は左記編集室までお問い合わせください。



<http://www.osakagas.co.jp/cel/>



● 本誌・バックナンバーのコンテンツについては
ホームページにてご覧いただけます。